

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会  
第4回 浅地中処分安全評価分科会 (F7SC) 議事録

1. 日時 2003年11月19日 (水) 13:30~17:00

2. 場所 (社)日本原子力学会会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 長崎 (主査) (議事5 aまで), 苅込 (幹事), 大間, 子安, 富樫, 中居, 橋本, 牧野, 増井 (9名)

(代理出席委員) 安達 (河田代理), 宮本 (三倉代理) (2名)

(欠席委員) 木村 (副主査), 大浦, 坂下, 佐藤 (4名)

(常時参加者) 八登 (1名)

(事務局) 阿久津

4. 配付資料

F7SC4-1 第3回 浅地中処分安全評価分科会議事録 (案)

F7SC4-2 標準委員会の活動概況

F7SC4-3 標準本体案

F7SC4-4 標準解説案

F7SC4-5 前回分科会でのコメント対応状況

F7SC4-6 検討状況について (サイクル部会報告用)

参考資料

F7SC4-参考1 浅地中処分安全評価分科会委員名簿

F7SC4-参考2 標準委員会特別会合の提言

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より, 出席者の確認の結果, 開始時点で15名の委員中8名の委員と2名の代理委員の出席があり, 決議に必要な委員数 (10名以上) を満足している旨の報告があった。また, 苅込氏と子安氏が, 原子燃料サイクル専門部会のメールによる決議によって, 11月10日に委員として承認されたことが報告され, 前回議事により苅込氏が幹事として選任された旨, 報告された。

苅込幹事より, 長崎主査到着まで, 主査を代行する旨の報告があった。

(2) 前回議事録確認

事務局より, F7SC4-1に沿って前回議事録の確認が行われ, 承認された。

(3) 標準委員会の活動状況報告

事務局より, F7SC4-2に沿って, 標準委員会の活動状況報告があった。

(4) 標準本体, 解説案の確認

a. 極めて放射能レベルの低い放射性廃棄物処分の標準的な安全評価法 (案その2)

中居委員より, F7SC4-3及びF7SC4-5に沿って, 「極めて放射能レベルの低い放射性廃棄物処分の標準的な安全評価手法」について前回分科会との変更箇所を中心に説明があり, 次の意見があった。

・3. 定義の箇所で含めるべき定義, 参照用語集があればコメント欲しい。

・P.2の「下流に河川などがない沿岸部および, 下流に河川や湖沼がある内陸部」という意味がわかりにくいので修文が必要。

・P.17 (解説) の部分の後半は, 「客土がなされない場合には○○の式に基づく」という内容を追加する必要があると思う。

・モデルの部分で, 数式の説明の前にモデルのイメージや概念を示す図があればよいと考える。

・モデルの記述について「次式により求める」→「次式を使うことができる」旨の修正が必要。

- ・「車両輸送時の火災」については、原子炉施設共通の事故モードであり本標準の範疇を超えると考えられるため、ダストによる被ばくの式を標準本体に含めるにとどめ、附属書で操業中事故の考え方を記載する。
- ・「素掘り」という記載は「素掘り」に訂正すること。
- ・対象核種については極力多数を含めることを原則にする。具体的には原安委第三次中間報告+原安委RI研廃安全規制の考え方の核種を網羅する。
- ・6.2評価パラメータの「河川産物への濃縮係数」はIAEA TRS No.364が出典だが、Cは異様に高い。これは以前から認識しており、別途データの採取を考えている。
- ・「日本原子力研究所事業許可申請書」はパラメータ引用文献として不適切。
- ・P.28のパラメータの箇所について。パラメータの重要度に応じて扱いを変える旨の記載が必要ではないか。
- ・パラメータの種類についてはもう少し絞った方がよい。

b. 極めて放射能レベルの低い放射性廃棄物処分の標準的な安全評価手法（解説案）  
 増井委員より、F7SC4-4に沿って、極めて放射能レベルの低い放射性廃棄物処分の標準的な安全評価手法解説案について説明があり、次の質疑が交わされた。

- ・P.2の4行目で「安全評価結果」という用語を使用しているが、「安全評価」は目安線量との比較の際に用いるものであり、ここでは「評価結果」とすべき。
- ・「国内における最近の動向」にあるリスクと線量の等価性の記載は本標準には不要。
- ・p5～p6で、「評価シナリオ」という言葉の使い方に配慮すべき

#### (5) 標準原案の原子燃料サイクル専門部会への説明について

増井委員より、F7SC4-6に沿って説明され、標準原案を第15回原子燃料サイクル専門部会に付議するかという議論を交わし、第15回サイクル部会では中間報告は行わず、分科会の活動状況報告に留めることとした。

#### 6. 今後の予定

- ・本日審議した標準本体案、標準解説案について、コメントがある場合、12月5日までに事務局に提出することとし、それを受けて作業会を実施することとした。
- ・次回分科会を2004年1月30日（金）13:30から開催することとした。

以上